

東部ポー・カレン語における文語体の発生について

加藤昌彦 (慶應義塾大学)

1. はじめに

①ポー・カレン語(Pwo Karen)は、シナ・チベット語族チベット・ビルマ語派カレン語群に属する分析的なSVO型言語。西部方言群、東部方言群、トゥークリーバン方言(Kato 2009)、北部方言群(Phillips 2017)等に分かれ、それらは互いに通じない。

②本発表で扱う方言は、東部方言群(Eastern Pwo Karen)に属するパアン方言(Hpa-an dialect; ミャンマー連邦カレン州の州都パアン市周辺で話される)。東部方言群はミャンマー連邦カレン州、モン州、タニンダーイー省、タイ国カンチャナブリー県等に分布する。(言語の概要については Kato 2017, 2019 を参照)



図：ポー・カレン語諸方言とポー・カレンの人々(写真は、**Eastern:** Hpa-an, Karen State;
Western: Kyonpyaw, Ayeyarwady Region; **Htoklibang:** Bilin Township, Mon State)

2. ポー・カレン語の「文語体」

①東部ポー・カレン語を書き表す文字には、少なくとも、仏教ポー・カレン文字、キリスト教ポー・カレン文字、レーケー教文字の3種類があるが、lái phlòun「ポー・カレン文字」といえば、このうち仏教ポー・カレン文字のことを指す。※東部ポー地域は仏教徒が多い

②仏教ポー・カレン文字は、モン族(Mon)からの仏教受容に伴い、モン文字に基づいてなれば自然発生的に成立したものである。18世紀末から19世紀前半にかけて基礎が出来上がったと思われるが、正確な経緯は分かってない。U Phon Myint (1975)によれば、現存する最古の文書は1851年に作られたものである。その後、貝葉文書の作成に際して用いられていくものの、使用はいくつかの僧院の中だけに限られていたようで、一般に用いられることはなかった。ジャンルも韻文に限られていた。

注：仏教ポー・カレン文字(láithùlì；「貝葉文字」の意)の概要については加藤(2001a)を参照。キリスト教ポー・カレン文字(láichèinxí；「聖なる文字」の意)は、アメリカ人宣教師のWadeやBratonによって作られ、1850年代に現在の形になった。しかし、Kato (1995)や加藤(2001b, 2006)で指摘したとおり、もともと仏教徒の多かった東部方言群地域には一部のクリスチャン村を除いて広まらず、後に信徒の増えた西部方言地域(エーヤーワディ川デルタ地帯)で広まることになった。東部方言は仏教ポー・カレン文字[BPS]とキリスト教ポー・カレン文字[CPS]のどちらでも書くことが可能。下に昔話の冒頭部分を例として引く。

[BPS] လုံအိုဝိးဝူးအိုဝ် ကျာ့ဒိုသိုင့်ဇျေကုံဆင့်ကျိဉ်းကျိဝ်သော်လောတ်သာတာ။

[CPS] လာအံဒာအိး ကုဒဲဒာဒါဒဲကဆာနံဒါဒဲကိးဒါလိလောတာ

lá ?əwī dá?ò càdìθàn dè kəchân nī dù kòθó lóθà tā,

LOC 以前 (過去) ライオン と 象 二 頭 友と呼ぶ (相互)(継起)

အိုဝေလုံကော်ဝဟဉ်သော်လုံကော်ဝိုင့်ကျိလုံ။

အိဝါလာကိးဝေဒါလကိးဝေဒါနိလါ။

?ə wē lá kò phàdó lə kò phàn nó ló

住む EMP LOC 中洲 大きな 一 中洲 中 その LO

「昔、ライオンと象の(合わせて)二頭が互いを友と呼びあい、一つの大きな中洲に住んでいた」

レーケー教文字は「鶏の足跡文字」(láichânwé)と呼ばれる独特の形態を持つ文字である。弥勒菩薩を信仰するレーケー教徒によって使われる。おそらく19世紀中葉に作られた(下掲)。

ဒါဒဲဒါဒဲကဆာနံဒါဒဲကိးဒါလိလောတာ = ဒါဒဲဒါဒဲကဆာနံဒါဒဲကိးဒါလိလောတာ
 ဒါဒဲဒါဒဲကဆာနံဒါဒဲကိးဒါလိလောတာ = ဒါဒဲဒါဒဲကဆာနံဒါဒဲကိးဒါလိလောတာ
 ဒါဒဲဒါဒဲကဆာနံဒါဒဲကိးဒါလိလောတာ = ဒါဒဲဒါဒဲကဆာနံဒါဒဲကိးဒါလိလောတာ

③1960年代に、ビルマ社会主義計画党により少数民族語の教科書を作る動きが生じ、それに伴ってカレン州パアン市でも仏教ポー・カレン文字の教科書が何冊か出版された。同時に、正書法としての整備がなされた(例えば声調を体系的に表記できるようにした)。整備されたこの文字は、有志による文字講習や僧院での文字教育等の形で教えられ、ここに至って初めて散文も書かれるようになっていく。しかし、自由に読み書きできる人はなかなか多くならなかった。2011年のミャンマーの民政移管以降、初等教育において少数民族語教育が認められ、小学校においてこの文字が教育されるようになったので、この文字の普及は進んでいくものと思われる。しかし、全般として見たとき、書き言葉がポー・カレン人社会に浸透しているとは言いがたい状況である。

④書き言葉が定着していない状況であるにもかかわらず、ポー・カレン語には明らかに文語体が存在する。文語体の特徴のうち目立つものとして、(a)文末助詞 ló [55]「～であります」の多用、(b)対句表現の多用、(c)関係節標識を用いた関係節の多用、といった傾向が挙げられる。以下にそれぞれの例を少し見ておく。

⑤まず、(a)の文末助詞。書き言葉では、(1)のように、文末助詞 ló で終わる文が頻出する。文章によっては、ほとんどの文がこの助詞で終了する。一方、話し言葉に ló が現れること

はほとんどなく、文末位置には(2)のように他の何らかの文末助詞が現れることが多い。

(1) yéin nó θí θáun thán nī wê dè wá nó l̩ [書き言葉]
 家 TOP also 建てる up 得る(強調) COM 竹 その SFP
 「家も、竹で作られているのです」

(2) ?è mwē θí mə mwē θī chī {nē / x̩ / jā b̩} [話し言葉]
 if COP also IRR COP also too SFP SFP SFP SFP
 「そうかもしれない{ね / よ / のだよ}」

⑥一つ考えておかなければならないのは、l̩ [55]に形の似た助詞 l̩ [51]が存在し、話し言葉においてもこの助詞は頻繁に現れるということである。これは強調を表す。(3)を見よ。

(3) ?əwē mwē phl̩ðun l̩ [話し言葉]
 3sg COP カレン族 SFP
 「彼は(ほかでもなく)カレン族だよ」

⑦書き言葉の文末に現れる l̩ が、l̩ と同一の形式である可能性を考慮する必要がある。声調の違いがあるが、l̩ [51]に文末に現れるイントネーションの一種[55]がかぶさったと考えれば、l̩ [55]のように発音されることも説明がつく。

⑧しかし、本発表では同一形式であるとは考えない。その理由は、

a) 一つ目に、仏教ポー・カレン文字ではこの二つを書き分けるということである。လုံ l̩ および လုံ l̩ (キリスト教ポー・カレン文字では書き分けない。どちらも လုံ l̩)。

(例) “ထေါဟ်လုံအွာ” လိက်စိင်းအုံဒေယိုဝ် မွဲဖျဲဆိုင်ဖေါဟ်ဂမုင်.သယ်လုက် ဆိုင်ဒေ အုံရိုင်.ကျါ။ အုံဝီ.ခွါသယ်တုံ သုံယုဏးသုံကဲ မွဲဒေဖျဲမေင်စိင်းအုံဟ့င်. လိက်အုံဂ်လုံအုံဂ်လုံတုံ ဟုံဏယ် အင်းဆေဝ်.လုံ။

... mwē wê phl̩ðun mjàncèin ?əyāin
 COP EMP カレン 歴史 事柄
 láip̩?àu lə ?àu l̩ nó hə nē?án chī l̩
 本 一冊 (強調) TOP 1pl 信じる (婉曲) LO

「...(この本が)カレン族の歴史を紡ぎ出す本の一冊であることを信じる」

b) 二つ目に、もし書き言葉に現れる文末助詞 l̩ が強調の l̩ だとしたら、ほとんどの文が l̩ で終わる文章(後掲)における l̩ の存在意義を説明するのが難しい。ほとんどの文が l̩ によって強調されているのだとすれば、もはやそのテキストにおいて l̩ は強調を表すことができなくなるだろう。

したがって、本発表では、l̩ と l̩ は別物であると見なして論を進める。

⑨**(b)の対句表現**については、(4)を見られたい(5)と比べよ)。対句表現の使用は、通常の話し言葉ではそれほど頻繁ではない。ただし、使われないというわけではなく、強調等の効果を狙って使われることがある。昔話等の語りにもよく現れる。(対句表現については Matisoff 1973: 81-86, 297-301 参照。Matisoff は *elaborate expression* と呼ぶ)

(4) já xâiN phài xâiN [対句表現]
肌 乾く 皮 乾く 「肌が乾燥する」

(5) já xâiN [通常の表現]
肌 乾く 「肌が乾く」

⑩**(c)の関係節**については、(6)と(7)の対および(8)と(9)の対を参照。書き言葉では、(6)と(8)のように、関係節標識 *lɔ* を用いて名詞に後置する関係節が話し言葉よりも多く現れる。話し言葉でこのタイプの関係節が現れることは、ほとんどないと言ってよいほどである。話し言葉では(7)や(9)のような関係節標識を用いないタイプが使われる。(7)では関係節が名詞の直後に置かれ(主名詞が関係節の主語に相当する場合)、(9)では関係節が名詞の直前に置かれている(主名詞が関係節の主語以外に相当する場合)。

(6) phlòuN lɔ [ʔə lì bá cəpân] nó [関係節標識を用いるタイプ]
人 REL 3sg 行く (経験) 日本 その 「日本に行ったことのある人」

(7) phlòuN [ø lì bá cəpân] nó [関係節標識を用いないタイプ]
人 行く (経験) 日本 その 「日本に行ったことのある人」

(8) láiʔəu lɔ [jə pɔ ø] nó [関係節標識を用いるタイプ]
本 REL 1sg 読む その 「私が読んでいる本」

(9) [jə pɔ ø] láiʔəu nó [関係節標識を用いないタイプ]
本 読む 本 その 「私が読んでいる本」

⑪本発表では、書き言葉の特徴として最も目立つ**(a)文末助詞**に特に着目し、書き言葉に用いられる *lɔ* がどのようにして現れたのかを考える。結論として、*lɔ* は多数の聞き手が存在する場面(演説や法話等)において発話に丁寧さを付加する機能を持っており、その機能が書き言葉という場面で活用されていると考える。併せて文語体発生についての私見を示す。

3. 使用の実際

①以下、書き言葉の例として「Text 1: 私達のボンカタイ村」「Text 2: 民族が強固であるために」を取り上げ、また、話し言葉の例として「Speech 1: ドン舞踊についてのインタビュー

一」 「Speech 2: カレン州記念日ドン舞踊コンテストの準備」 「Speech 3: ミャンマー国営放送ポー・カレン語番組の紹介」を取り上げる。Text 1はポー・カレン語の教科書(*phlòun lái p̄ la chàn*, 1960年代?)に掲載の読み物、Text 2はポー・カレン語の雑誌(*chì thàbàn cúkhî láibéin*, 1996年)に掲載されたエッセイである。話し言葉の例として挙げる3つは、2013年に始まったミャンマー国営放送少数民族番組(NRC)のポー・カレン語番組から取ったものである。

②Text 1: 私達のボンカタイ村 (全文)

၉၅

ဝိုင်တိုင်တိုင်နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ်

ဝိုင်တိုင်တိုင်နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် -
 နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ်
 နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ်
 နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ်
 နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ် နွဲ့ဆိုင်ဗျာဝ်

(10) *pə təwân nó ʔə mèn mwē wê bóunkətái lɔ̄*
 1pl 村 TOP 3sg 名 COP EMP (固有名詞) LO
 「私達の村は、名前がボンカタイです」

(11) *pə təwân nó ʔó lá dòn thəʔàn ʔəphânkhó*
 1pl 村 TOP ある LOC 町 パアン 上

lɔ̄ thíkhló phàdó ʔənàin nó lɔ̄
 LOC 川 大きな 傍 その LO
 「私達の村は、パアン市の上方(川上側)、大きな川のほとりにあります」

- (12) pə təwân dē dōUN thəʔàn nó ʔó jàin wê jē tən **l̩**
 1pl 村 と 町 パアン TOP ある 遠い EMP 5 マイル LO
 「私達の村とパアン市は5マイル離れています」
- (13) lá təwân phèn nó yéin ʔó wê θəŋjà blé **l̩**
 LOC 村 中 TOP 家 ある EMP 300 越える LO
 「村の中には家が三百数十軒あります」
- (14) yéin chānlé làn θà lá thíkhló ʔənàin nó
 家 並べる down MID LOC 川 傍 ~して
- ʔəeò ʔó wê lə tən blé **l̩**
 距離 ある EMP 1 マイル 越える LO
 「家が川のほとりに並んでおり、その距離は1マイル半あります」
- (15) lá təwân phèn nó chəmə̀lóláiphjā ʔó wê nī phlóUN,
 LOC 村 中 TOP 学校 ある EMP 2 個
- chə nī phlóUN nó mwē wê lá ʔəklà lə chú nó lə phlóUN
 物 2 個 TOP COP EMP LOC 真ん中 1 箇所 TOP 1 個
- dē ʔəkhánthài lə chú nó lə phlóUN chī **l̩**
 and 下 1 箇所 TOP 1 個 (婉曲) LO
 「村の中には学校が2つあり、それらは中央の地区に1箇所、下の地区に1箇所です」
- (16) lá təwân phèn nó təwānpʰú θílepʰá dòn bá wê θài ʔé
 LOC 村 中 TOP 村人 (複) 煮る (機会) EMP 酒 NEG
 「村の中では村人達は酒を造ってはなりません」
- (17) bú lən bá thòphó chānpʰú ʔé chī **l̩**
 飼う down (機会) 豚 鶏 NEG (婉曲) LO
 「豚や鶏を飼ってはなりません」
- (18) pə təwân nó mwē wê dá pəmə̀cháiphó dē pəmə̀klòphó θí ʔə təwân **l̩**
 1pl 村 TOP COP EMP (限定) 稲を作る人 と 畑を作る人 (複) 3sg 村 LO
 「私達の村は、農民の村であります」
- (19) lá təwân mūnáo khô nó cháipətà dē cháitəwē θí ʔó wədə chī **l̩**
 LOC 村 西 側 TOP 涼期の田 と 暑期の田 (複) ある EMP (婉曲) LO
 「村の西側には涼期の田と暑期の田とがあります」

(20) ló mūthán lə khô thíkhló phèn kò khódà nó dò pəēā mà ʔán klò
 LOC 村 1 側 川 中 洲 表面 TOP また 人 作る 食べる 畑

dē θáun ʔán chədòchələ θí ʔó wédá chī ló
 and 植える 食べる 野菜 (複) ある EMP (婉曲) LO

「東側の川の中にある洲では、人々が畑を作り、野菜を植えて暮らしています」

(21) pə təwân nó ʔó wê ló thíkhló nàin nó ʔəkhócòn, nī néin θōn néin
 1pl 村 TOP ある EMP LOC 川 傍 その なので 2 年 3 年

lə blàn thíkhló bàì thán wê təwân nó klò ló
 1 回 川 覆う up EMP 村 TOP いつも LO

「私達の村は川のほとりにあるので、2,3年に1回、洪水が起きるのが常です」

(22) ló təwân phèn nó pəēā θáun làn θè phlò dē θàkwì θè nótā,
 LOC 村 中 TOP 人 植える down 檳榔 ココヤシ と バナナ (複)～して

eúmáú wê yìyìbábá chī ló
 平和な EMP 良好に (婉曲) LO

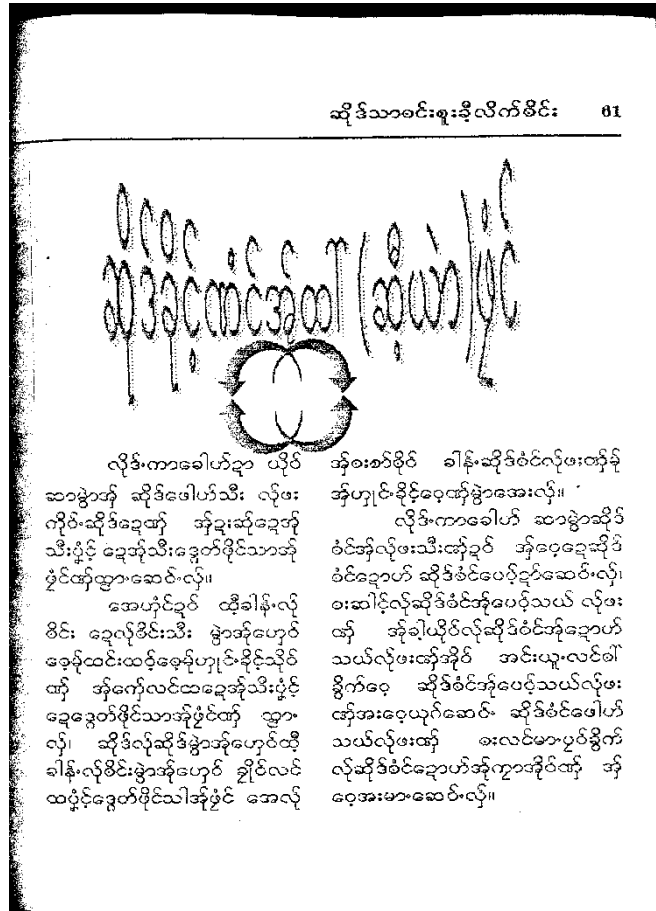
「村の中に人々がビンロウやココヤシやバナナの木を植えていて、非常に平和です」

(23) pə təwânphó θílaphá ʔó xú ʔó xàn klicì mà cháí mà klò nó ʔəkhócòn,
 LOC 村人 (複) いる 団- いる -結 勤勉 する 田 する 畑 その なので

ʔəθíwê ʔán jèn ʔò xwè kò yà dè chī ló
 3pl 食べる 充- 飲む -足 各 ～人 毎 (婉曲) LO

「村人は団結し田畑を勤勉に作っているので、全員が満ち足りています」

③Text 2: 民族を強固にするための十五ヶ条 (冒頭部分)



(24) līkà khódà jò chàmwē chìphú θílephá kò chī dè nó ?ó dá chà
 世界 表面 この あらゆる 民族 (複) 各 種 毎 TOP ある (限定) 物

dē ?əθí pənôn dē ?əθí təkhephànθà ?əphlòn nó thəmā chī **l5**
 COM 3pl 規則 と 3pl 規律 条項 TOP 専ら too LO
 「世界のあらゆる民族は規則や規律を持っていることが普通です」

(25) ?èyòndò thikhān lə béin dē lə béin mwē ?əyì
 そして 国 1 枚 と 1 枚 COP ~であれ

bē mə thánthō bē mə yəuŋkhân θò nó ?ókí làn thá
 so.as IRR 発展する so.as IRR 強固な よう TOP 置く down (保持)

dē ?əθí pənôn dē təkhephànθà ?əphlòn nó thəmā **l5**
 COM 3pl 規則 と 規律 条項 TOP 専ら LO
 「そして、どんな国であれ、発展し強固になるよう、規則や規律を持っていることが普通です」

(26) chì lə chì mwē ʔəyì thíkhān lə béin mwē ʔəyì, khìlò làn thá pənôn
 民族 1 民族 COP ~であれ 国 1 枚 COP~であれ 置く down (保持) 規則

təkhéphènthà ʔəphlòn ʔè lə ʔó bá cài bò, khān chibòn ləphá nó
 規律 条項 もし (否定) ある (否定) 言うなら 国 民族 (複) TOP

mə ʔó yəuŋkhên wê nó mwē ʔé **lɔ**

IRR ある 強固な (強調) TOP COP (否定) LO

「民族であれ国であれ、規則や規律がなければ、国や民族は強固ではられません」

(27) líkà khó chàmwē chibòn ʔó ləphá nóđò ʔó wê dē
 世界 表面 あらゆる 民族 ある (複) TOP ある (強調) COM

chibòn dó chibòn pī dài chī **lɔ**

民族 大きい 民族 小さい まだ too LO

「世界にいるあらゆる民族には大きい民族と小さい民族とがあります」

(28) bāchāin lə chibòn ʔəpī θèləphá nó ʔəkhājò lə chibòn ʔədú θèləphá nóʔò
 関する LOC 民族 小 (複) TOP 今 LOC 民族 大 (複) TOP

ʔánjū lànbaì khwái wê chibòn ʔəpī θèləphá nó
 飲み込む 埋まる (徹底) (強調) 民族 小 (複) TOP

ʔá wê jàu chī **lɔ**

多い (強調) PFV too LO

「小さな民族に関して言えば、現在、大きな民族が小さな民族を飲み込んでしまっ
 ていることが多くなっています」

(29) chibòn-phó θèləphá nó bá làn mā plò khwái lə chibòn dó ʔəklà ʔò
 民族-子 (複) TOP must 消える 無駄に (徹底) LOC 民族 大きな 中 あの

nó ʔó wê ʔá mā chī **lɔ**

TOP ある (強調) 多い very too LO

「小さな民族が大きな民族の中で為すすべなく消えてしまっていることがたいへん
 多いのです」

(30) ʔəkhâjò hæphlòʊN chiphó θíchī xwè pə dá bá nó
 今 カレン 民族 も ~する限り 1pl 見える (機会) TOP

ké thán thàin chī xāxòN nó ʔá mā jàʊ chī l̩
 なる up 次は 民族 別の TOP 多い very PFV too LO
 「現在、カレン族も、観察する限り、別の民族になってしまっていることが非常に
 多くなっています」

④Speech 1: ドン舞踊についてのインタビュー (NRC_HlaHtwe.mp4, 1分26秒から)



(31) xúchíθə̃N blàn thánbà phlòʊN thikhāN mūnì ʔèyòndò dē
 63 回 になる カレン 州 日 それから COM

báchâin dē phlòʊN thikhāN chəʔóchónʔókhláin θè chəthánʔwíthánphá dē
 関する COM カレン 州 健康 (複) 経済 と

chəeúchəbá jā nê
 平和 か ね

「[ドン舞踊の歌詞の内容については、]63回目のカレン州記念日、それから... カレン
 州[の人々の]健康と経済、そして平和ですね」

(32) phóthá θè khô θí báchâin lé chəθíchəbá láilē θè chəxíchəlà θè
 子供 (複) 側 も 関する LOC 教養 文字 (複) 文化 (複)

ʔəyāN nó hæ chònmón chúkè bənóthò jā bò
 ため TOP 1pl 考える 書く そのように か よ

「子供達のことに関しても、教養や読み書き、文化などの[発展の]ため、[民族舞踊
 の伴奏音楽の歌詞を]考えて書いたというわけなんですよ」

(33) lé dōUN thəʔàn khənân mjódò tōUN nó hə pətòn ʔántàin làn lú ʔautòbàlà
 LOC 町 パアン 郡 (固有) ドン TOP 1pl 開設 準備 down LOC 10月

ʔəθân θəŋchî khâ nó hə ʔê làn pəkòUN θò jâ bò
 日 30 時 TOP 1pl 来る down 集める 友 か よ

「パアン郡のミョードー・ドン舞踊団は、10月の30日に創設して、有志を集めたのです」

(34) pəkòUN θò θəʔòn cəkhānθwīN, ʔəlāndà nó lé thəʔàn jìncémúpjátái jâ bò
 集める 友 して 合宿する 場所 TOP LOC パアン 文化博物館 か よ
 「有志を集めて合宿したのですが、場所はパアン文化博物館でした」

(35) ʔəjò nó múyī chāmwē màlú wá hə tōUN kòplàn nó jâ,
 これ TOP 去年 あらゆる 教える (機会) 1pl ドン (村名) あの か

lé kòplàn phóthá θè θí ʔəlānlî pà lənānnàn chī
 LOC (村名) 子供 (複) も 旧い人 含まれる いくつか too

「それから、去年、私達のドン舞踊を教えたコープラン村[の舞踊団の]全員のうち、その子供の何人もいます」

(36) ʔəʔòndò lənéinjò θí pàicòn kənân nê mjàincíjù θí pà chī
 そして 今年 も (地名) 郡 ね (地名) も 含まれる too
 「そして、今年もパイション郡ですね、[そこの]マインジューグー[の子供]もいます」

(37) lé mjáwədi dōUN khô θí pà chī
 LOC (地名) 町 側 も 含まれる too
 「ミャワディー市のほう[から来た子供]もいます」

(38) kòtərài θí pà chī
 (地名) も 含まれる too
 「コカレイ市[から来た子供]もいます」

(39) chərâ θəN ʔà jâ nê, chərâ θəN ʔà nó ʔəθíwədə, lé thəu wá
 先生 3 人 か ね 先生 3 人 TOP 3pl EMP 引く (機会)

thəu wá nàin θí, pə kò bənóθò θí pà chī
 引く (機会) 再び も 1pl 呼ぶ そのように も 含まれる too

「先生3人はですね、先生3人は、再び引っぱってきた人、私達がそうやって呼んで来た人たちです」

(40) ʔə̀yòndò lé mjáwə̀di θè khô mwē ʔə̀θí yê làn nó
 そして LOC (地名) (複) 側 COP 3pl 来る down TOP

wàθə̀nàèin θè θí pà chī

愛好家 (複) も 含まれる too

「そして、ミャワディーなどから来た人たちは、愛好家も含まれます」

(41) lə̀néinjò θí chāmwē chə̀ prə̀nxòN nó ʔə̀ chə̀pə̀jò nó
 今年 も あらゆる (非人称) 競う TOP 3pl 目的 TOP

ʔókí thánthô ló jā̀ bə̀

置く 高い (強調) か よ

「今年も、踊り子のすべては、目標を高く置いています」

(42) ʔə̀yòN lúu múyī nī dá wè ljə̀θə̀i ʔə̀náiNlən ʔə̀chāN nó θí
 そして LOC 去年 得る 置く (保持) 賞 第一 段階 TOP も

bé mə̀ nī nàin ljə̀θə̀i θò, dē chə̀rā θè dē thiphlē θè mòmôxòxô θè nó
 so.as IRR 得る 再び 賞 よう COM 先生 (複) COM 弟子 (複) 共に (複) TOP

lò xúu lò xàN lóθà, hə̀ mə̀ klicì jā̀ bə̀ nē

言う 団- 言う -結 (相互) 1pl IRR 努力する か よ ね

「そして、去年いただいた一等賞も、再びもらえるよう、先生と弟子が共に団結して、努力する所存です」

(43) hə̀ jò, báchāin dē ʔə̀phlòN thikhāN mūmì nó thánbà lán
 1pl この に関して COM カレン 州 日 TOP なる up

xūchíθə̀N néin jə̀u nē

63 年 PFV ね

「カレン州記念日について言うと、63年になるわけですね」

(44) ləkhâin ləkhâin khô nó θí ʔó thá wè dá thōN kò néin kò néin dè jā nê
 今後 今後 側 TOPもある 置く(保持)(限定)まで 各年 各年 毎かね

néinpōN ləjà lə kà, lə néin má lə blàn nó chəmúlá chəxíchələ nó
 年数 百 NEG 限る 1 年 に 1 回 TOP 希望 文化 TOP

ʔó dáwê kò néin dè kò blàn dè hə jō cò jāthəpā bēnó **l̩**
 ある(祈願) 各年 毎各回 毎 1pl 見る(遠隔) 祈る そのよう(強調)
 「今後もずっと、何年もですね、百年と言わず、毎年、希望と伝統文化が永久に続
 くよう、見守り、祈っています」

⑤Speech 2: カレン州記念日ドン舞踊コンテストの準備 (NRC_HlaHtwe.mp4, 冒頭から)



(45) jōphəN eòN phlòuN chəθəuəchəklè thənpħūwē mōphā khəmləN θè
 見る (皆で) カレン 番組 兄弟 父母 観衆 (複)

kò yà dè ʔó chón lā chài
 各人 毎 いる 元気な(希求) SFP

「ポー・カレン語番組を見てくださっている視聴者の皆さん、こんにちは」

(46) chī lə chī nó ʔəθí láilē thùrútməuNbjà chəxílà chəphóchəʔú
 民族 1 民族 TOP 3pl 文字 伝統 文化 楽器演奏

chəthəuNlīthəuNthàin θè nó ʔó wèdá thəmā chī **l̩**
 舞踊 (複) TOP ある(強調) 専ら too LO

「ひとつの民族には、文字や伝統文化としての音楽や舞踊があるのが一般的です」

(47) phlòuN chìphò θè nó θí ?əθí láilē thùrútmənbjà chəxílà chəphóchə?ú
 カレン 民族 (複) TOP も 3pl 文字 伝統 文化 楽器演奏

chəthəuNlithəuNthàin θè ?édò phàdú rəθê wédá ?əkhócòN,
 舞踊 (複) 愛する 大きい 敬う (強調) ので

phlòuN thíkhāN mūmì ?è thòN nó, náu làn prəNXòN wédá
 カレン 国 日 もし 着く TOP 入る down 競う (強調)

phlòuN chəxílà tōuN θè nó chī **l̩**
 カレン 文化 ドン舞踊 (複) あの too LO

「カレン民族も、文字や伝統文化としての音楽や舞踊をたいへん愛し、敬っているので、カレン州記念日になると、カレンの伝統文化であるドン舞踊の競技会を開きます」

(48) nīthòNləchíxó néin là nòwìnbà nwē θāN ?è thòN nó, phlòuN thíkhāN
 2018 年 月 11月 7 日 もし 着く TOP カレン 国

mūmì nó mə thánbà thán wédá xūchíθəN néin jəu nē
 日 TOP IRR なる up (強調) 63 年 PFV ね

「2018年11月7日、カレン州記念日は63年目を迎えるのですね」

(49) cānbò xūchíθəN néin thánbà phlòuN thíkhāN mūmì khó
 だから 63 年 なる カレン 国 日 (未来)

mə náu làn prəNXòN phlòuN chəxílà tōuN θè nó ?ə chəkrìcì ?ó
 IRR 入る down 競う カレン 文化 ドン舞踊 (複) TOP 3pl 努力 ある

bēthí lē nó mə dá bá bējòθò chī **l̩**
 どう か TOP IRR 見える (機会) このよう too LO

「だから、63年目になるカレン州記念日に競う予定のドン舞踊団が、どのような努力をしているか、これからご覧に入れます」

⑥Speech 3: ミャンマー国営放送ポー・カレン語番組の紹介 (NRC_introduction.mp4, 冒頭から)



(50) mōphā khəmlān θèí kò yà dè, ló ?énàcí phlòun chəθàuchəklè khô
 父母 観衆 (複) 各 人 毎 LOC NRC カレン 番組 側

?ányá làn bá chī ló chàì
 歓迎する down (機会) too (強調) SFP
 「視聴者の皆さん、NRCのカレン語番組によろこそ」

(51) kəlòun læ mèin bê mə thánthó θò càì bò,
 仕事 1 種類 so.as IRR 発展する よう 言う なら

kòunlwē ?əphú?ədón nó ?əlò dú tháu ló jā
 組織 団体 TOP 要求 大きい 最も (強調) ではないか
 「ひとつの仕事が発展するためには、組織が最も重要ですよ」

(52) kòunlwē xúxàn má, kəlòun chəphlónyá nó mə nī wédá jā
 組織 団結した こそ 仕事 成功 TOP IRR 得る (強調) ではないか
 「組織が団結していてこそ、仕事の成功が可能ですよ」

(53) ló mjəmà dáyànγênlū phlòun chiphó chəθàuchəklè jò
 LOC ミャンマー テレビ カレン 民族 番組 この

ʔó wêdá mənī màbò thíkhānyə̀nchā θè nó
 ある (強調) 人 助ける 州民 (複) TOP

chəθàuchəklè bê mə thánthô θò xùxùxànxàn màbò màchèn
 番組 so.as IRR 発展する よう 団結して 助ける 助ける

ʔó wêdá nó chī ló
 ある (強調) あの too LO

「このミャンマー放送カレン語番組では、所属する[職員の]カレン州民が、番組が発展するよう団結して助け合っているということがあるのです」

(54) lāndà lə mômó γê lə γà lə cón ló mənī màbò thíkhānyə̀nchā θè
 場所 NEG 同じ 来る 1 人 1 箇所 LOC 人 助ける 州民 (複)

kòunlwē ʔəphúʔədón θè nó mə pàθijâ làn θà
 組織 団体 (複) TOP IRR 知らせる down MID

dē khəmlən θè nó chī ló
 COM 観衆 (複) あの too LO

「出身地の違うカレン州民からなる私達の組織を視聴者の皆さんにご紹介します」

4. 考察と結論

①書き言葉：書き言葉では非常に頻繁に文末助詞 *lɔ* が現れる。

②話し言葉：通常の話し言葉では、Speech 1に見られるように、*lɔ* は現れないと言ってよい。しかし、話し言葉であっても、Speech 2やSpeech 3のように、不特定多数の聞き手に話しかける時、*lɔ* が現れる。*lɔ* が現れる発話には、次のような共通特徴が見られる。それは、

- (i)多数の聞き手が存在する、
- (ii)話し手は丁寧に話そうとしている、

ということである。

③(i)が観察される具体的な場面は、演説、僧侶による法話、学校における講義、集会における司会などである。(i)は *lɔ* が使われるための必要条件であり、(ii)は、話し手がこの助詞を使う動機である。(i)の条件が満たされたとしても、丁寧さよりも例えば親密さを演出しながら話しかける場合には *lɔ* は使われない。このことから、*lɔ* は、多数の聞き手が存在する場面において発話に丁寧さを付加する機能を持つと考えられる。

④書き言葉は、不特定多数の読み手を想定して書かれるものである。これは、多数の聞き手が存在するという、話し言葉において *lɔ* が使われる条件と一致する。そしてまた、書き言葉は、話し言葉とは違って、時間と空間を越えて読まれる可能性のあるものだから (timeless, permanent, etc.; Coulmas 2002: 11)、ありとあらゆる種類の状況で読まれる可能性を想定しなければならなくなる。そのため、書き手は丁寧さを文章に込めたくなるだろう。

⑤結論：書き言葉に *lɔ* が極めて頻繁に使われるようになったのは、多数の読み手(≒聞き手)の存在が前提となるという点で話し言葉における使用条件と一致し、しかも、それが表す丁寧さが、書き言葉に相応しいと見なされたからであると推測する。つまり、*lɔ* が元から持つ機能が書き言葉という「場面」で活用されていると考える。したがって、*lɔ* を、文語体(もしそういうものが存在するのであれば)に属する機能語と見なす必要はない。

(b)対句表現と(c)関係節について——書き言葉における対句法の多用については、対句法が多く東南アジア諸言語やシナ・チベット諸語で絢爛たる文章を作る効果を持つことから、そのような効果を持つ修辞法として、数千年に及ぶ古い歴史を持つ可能性がある。関係節標識の多用については、西部方言やスゴー・カレン語との比較から、このタイプの関係節が古いタイプの関係節であると考えられるため、古い表現が格調の高さを醸し出すために使われていると推測する。

⇒文語体は、書き言葉の長い歴史がなくとも発生することがある。丁寧さ、絢爛さ、古さ等を感じさせる形式を盛り込むことにより、新しく創出され得る。

⑧付記：東部ポー・カレン語(Eastern Pwo Karen)における強調の *lɔ* に対応する西部ポー・カレン語(Western Pwo Karen)形式は *lɔ* (規則的な音韻対応を示す)、スゴー・カレン語(Sgaw Karen)形式は *lɔ* (不規則な音韻対応)である。一方、東部ポー・カレン語の文末助詞 *lɔ* と同

様の機能を持つ形式は、西部ポー・カレン語が lɔ̄、スゴー・カレン語が lɔ̄ であり、音声的に酷似。このため、19世紀あるいは20世紀と
 いった新しい時代に貸し借りがあった可能性あり。※有力言語であるスゴー・カレン語のキリスト教の説教において先行して発生し、それが借用されたか？ ※借用の社会的背景：民族運動の本格化(池田2000等参照)やキリスト教布教の活発化(藤村2020等参照)。



ミャンマー国営放送の2020年総選挙に関する広報番組から各言語の例を取る(下掲。当該文末助詞を赤で示す)。スゴー・カレン語、西部ポー・カレン語、東部ポー・カレン語の順に、新しい民主主義国家実現のため国民の意向を知る必要がある旨を言っている。

注：このような番組では少数民族各州に住む民族が出演するのが通例であるが、西部ポー・カレンの人々はカレン州(カイン州)ではなくエーヤーワディ省に主に居住するという点で特殊。

(55) [Sgaw] tà kə mā phlá thō ðimòkrèsì thíkò θó ʔəyò,
 (名詞化) IRR (使役) 現れる up 民主主義 国 新しい ため

lō wédá kəmlə ʔə tàbááʔ nē lɔ̄
 need EMP 民衆 3pl 希望 that LO

「新しい民主主義国家実現のため、民衆の希望[を知ること]が必要です」

(56) [W.Pwo] kə má thànphlàu ðimòkrèsì thikhânʔ əθàn ʔəyān,
 IRR (使役) 現れる 民主主義 国 新品 ため

kə bà thōunshə pəkhəmlən ʔə shəθaʔʔəu ləphà nō lɔ̄
 IRR must 迎える 民衆 3pl 意思 (複) that LO

「新しい民主主義国家を実現するため、民衆の意向を汲み上げなければなりません」

(57) [E.Pwo] mə bá mà phló thán ðimòkrèsì thikhān ʔəθān ʔəyān,
 IRR must (使役) 現れる up 民主主義 国 新品 ため

mə bá thōunchān phlòunkhəmlən θè ʔə chəθà ləphá nō chī lɔ̄
 IRR must 迎える 民衆 (複) 3pl 意向 (複) that too LO

「新しい民主主義国家を実現しなければならないので、民衆の意向を汲み上げなければなりません」

略号

COM	共同や道具を表す助詞	NEG	否定
IRR	非現実法	PFV	完結相
EMP	強調	REL	関係節標識
LO	文末助詞 15	SFP	文末助詞(15以外)
LOC	場所・起点・着点を表す助詞	TOP	主題
MID	中動態標識		

引用文献

- Coulmas, Florian (2003) *Writing Systems: An Introduction to Their Linguistic Analysis*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 藤村瞳(2020)「19 世紀前半のカレン・バプテスト宣教による影響の一考察 —文字文化と信仰の不可分な関係—」『東南アジア研究』57.2: 136–165.
- 池田一人(2000)「ビルマ独立期におけるカレン民族運動 —"a separate state" をめぐる政治—」『アジア・アフリカ言語文化研究』60: 37–111.
- Kato, Atsuhiko (1995) The phonological systems of three Pwo Karen dialects. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* 18.1: 63–103.
- 加藤昌彦(2001a)「仏教ポー・カレン文字」河野六郎・千野栄一・西田龍雄(編)『世界文字辞典』(言語学大辞典別巻), 847–851, 東京: 三省堂.
- 加藤昌彦(2001b)「キリスト教ポー・カレン文字」河野六郎・千野栄一・西田龍雄(編)『世界文字辞典』(言語学大辞典別巻), 333–337, 東京: 三省堂.
- 加藤昌彦(2006)「同一言語内における文字普及状況の差異について——ポー・カレン語の事例」塩原朝子・児玉茂昭(編)『表記の習慣のない言語の表記』, 89–110. 東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- Kato, Atsuhiko (2009) A basic vocabulary of Htoklibang Pwo Karen with Hpa-an, Kyonbyaw, and Proto-Pwo Karen forms. *Asian and African Languages and Linguistics* 4: 169–218.
- Kato, Atsuhiko (2017) Pwo Karen. (In) Graham Thurgood & Randy LaPolla (eds.) *The Sino-Tibetan Languages (2nd Edition)*, 942–958. London and New York: Routledge.
- Kato, Atsuhiko (2019) Pwo Karen. (In) Alice Vittrant & Justin Watkins (eds.) *The Mainland Southeast Asia Linguistic Area*. Berlin/Boston: De Gruyter Mouton.
- Matisoff, James A. (1973) *The Grammar of Lahu*. Berkeley and Los Angeles: University of California Press.
- Phillips, Audra (2017) *Entities and the Expression of Grounding and Referential Coherence in Northern Pwo Karen Narrative Discourse*. Ph.D. dissertation at the University of Alberta.
- U Phon Myint ဦးဘုန်းမြင့် (1975) buddha bhaasaa pui: karang pecaa samuing ဗုဒ္ဓဘာသာပိုးကရင်ပေစာသမိုင်း (A History of Palmleaf Inscriptions of Bhuddhist Pwo Karen)၊ Rangoon ရန်ကုန်၊ sapreUU:caapetuik သပြေဦးစာပေတိုက်။ (In Burmese)

※本研究は、2018年度慶應義塾学事振興資金によって行った。